

説明書

治療・検査の名称	腹腔鏡下腎盂形成術+/-逆行性腎盂造影（左・右）
----------	--------------------------

説明項目

1. 診断名（病気の名前と進行度）

腎盂尿管移行部通過障害

2. 病気の説明（どこに、なにがおきてどうなっているのか）

腎盂尿管移行部が狭いために水腎症が生じてしまう状態

3. 目的および必要性（なぜこの方法が提案されたのか）

水腎症による腹痛や嘔吐などの症状緩和と腎機能障害の進行を抑える

4. 方法（なにをどうするのか）

逆行性腎盂造影を行って狭窄部位を確認したのち患側が上になる側臥位となります。臍部にカメラポート、その他に2カ所+αのポートを挿入し腎盂形成術を行います。術後は尿管ステントとドレーン、尿道バルーンが留置されます。

5. 受けた場合の予想される経過（期待されること）

尿道バルーンは術後2-3日目、ドレーンは量に応じてその翌日に抜去します。自排尿が出ることを確認し問題なければ術後4-5日目に退院となります

6. 危険性および起こりうる合併症について（心配されることや副作用）

出血、感染、尿漏、縫合不全、再狭窄、内臓損傷、呼吸循環障害などがあります
出血などで術中に開腹に移行した方がよいと判断した場合は開腹します

7. 合併症発生時の対処について

院内の方針に準じます

8. 受けない場合の予測される経過、代替手段（他の治療法）

水腎症が悪化して腎機能が低下します、代替手段として開腹の腎盂形成術があります

9. 説明内容の理解と自由意思による同意承諾およびその取り消しについて

いったん同意をされた場合でも、いつでも撤回することができます。やめる場合は、その旨を担当者へ連絡してください。

この手術に同意されるかどうかは、患者様の意思が尊重されます。同意されない場合でも、不利益を受けることはありません。

現在の患者様の病状や治療方針について、他の専門医の意見を聞くことも可能です(セカン

ドオピニオン)。その際は、ご相談ください。必要な資料をご提供いたします。

10. 緊急時等

速やかに対応します

11. その他

術後創の痛みは麻酔科と協力して、改善に最善を尽くします。

術者： _____

説明者

説明日： 年 月 日 施行予定日： 年 月 日

診療科名： _____ 説明医師氏名（自著署名）： _____